

I Love NANA♡SEA!

生き物たちのふるさと七尾の海



海洋写真家
阿部 秀樹
Hideki Abe

私は水中カメラマンという仕事柄、さまざまな海に潜りその素晴らしさを撮影してきました。そして、いつしか七尾の海に引かれるようになりました。北は流水が浮かぶ北海道から南は沖縄のサンゴ礁まで。日本の海は、素晴らしい大自然が残る宝の場所です。しかし、なかでも七尾の海に通い詰めるのには訳があります。

人里近くの湾奥は波静かで、真水の影響を少し受ける典型的な内湾。江戸前で知られた東京湾と同じ環境です。一方、富山湾に面した外海は深海まで続く外洋。七尾にはごく狭い範囲に二つの異なる海が存在しています。そして両方に共通して

いるのが海藻の森が広がっていることです。海藻は健全な環境のパロメーター。特に七尾の海には、環境の変化に敏感なアマモという種類がほかでは見られないほど豊富です。この海中の森は魚たちのふるさとでもあり、稚魚たちはここですくすくと育ちます。まさに、「里海」という言葉そのもの。私の心を引きつけてやまない七尾の海は、生き物の命を育むという意味でも、日本の海です。

1957年神奈川県藤沢市生まれ。立正大学文学部卒業。幼少時代から海が遊び場で22歳の時に本格的にダイビングと水中写真を始める。その後、数々のフォトコンテストで受賞。国内外の研究者と連携した貴重な映像・撮影は国際的な評価を得ている。



能登島ダイビングリゾートオーナー
鎌村 実
Minoru Kamamura

身近にある海に、もっと目を向けて

能登に来たのは12年前。大阪から仕事で訪れたのがきっかけ。システムエンジニアとして国内外での活動する傍ら、アウトドア事業に携わり、海外はオーストラリア、日本は紀伊半島など新規エリア開拓を手掛けてきました。

スキューバダイビングはそのひとつ。各地の海を潜ってきましたが、七尾の里海にはとても引きつけられる魅力を感じました。それは他の地域にはない海藻の茂る光景と生態系です。健全な海の姿である海藻の豊かな七尾の里海は、サンゴ礁に匹敵するほどのレジャーの可能性と環境保全の必要性があり、地元との協力を得て調査を始め、日本海側で初

めての通年潜れるダイビングエリアを開設しました。また、腰を据えて活動を続けるのに、七尾へ移住をしたのもその時でした。開業して10年、マスコミや映像制作会社に七尾の里海を紹介し、全国放送番組や書物など、多くの映像を提供してきました。今や「全国のダイバーが一度は訪れたいダイビングポイント」として知られるようになり、県外からのお客様が毎月七尾を訪れ、四季折々の七尾の里海を楽しんでいただいています。

他の地域の方々から賛美される七尾の里海を、もっと皆さんに知っていただけるよう、今後とも日々の活動を続けていきます。

七尾の里海は、すべてが美しく楽しい海



新潟県見附市在住
平澤 俊隆
Toshitaka Hirasawa

七尾の里海に初めて潜ったのは5年前の5月の大型連休中。ボートで5分程沖合いでンギボーン。入浴剤を入れたような緑色、春色の海中を漂うクラゲをカメラを携えて追いかけてました。ところがその後、能登島の本気を見ます。

アメ玉大の珍しい形のクラゲは海に足を入れて徒歩10歩で何種類も見れますし、頭に房のある小指ほどの魚、コケギンポを見るなら最短1歩。

海の入口から緑色の草原が待つてくれます。草原ではゴマ粒大の酸素がブクブクと葉先から湧き出す様子を、春夏にはあちこちで咲く小豆大の白や

桃色の花を、梅雨時には緑色のホンエガサ(絶滅危惧種)まで見ることが出来ます。

夕方には、波間で散乱した橙色の光線が差し込み、まさに日本海(緑色の草原の先には波の跡、砂紋の広がる真っ白な砂原が続きます)。

何を撮ろうか?夢中になると空気を吸うのを忘れてしまいくらいです。七尾の里海は小さな生き物、花や海藻、夕陽、そして砂さえも楽しい海です。



能登島ダイビングリゾート代表
須原 水紀
Mizuki Suhara

人々に感動を与えることのできる七尾の里海

七尾の里海に潜り始めて、10年以上経ちました。能登島ダイビングリゾートの開業準備の時からほぼ毎日、海の生き物や植物の様子を観察、写真を撮って記録し続けています。

釣り好きな父親の影響で子どもの頃からボートに乗り、七尾湾の水面から水中をよく眺めていました。体この海の中はどんな世界なんだろう?通り過ぎる魚や、水面に流れる海藻を眺めながら、そんなことを思っていた記憶があります。

スキューバダイビングを始めたのは福井県の海でした。たくさんダイバーが全国から集まり、水中世界を楽しみ賑わう光

景が印象的でした。このように海に親しむ人を自分のふるさと七尾の里海に全国から集められ、地域活性化や環境意識の向上を図れるのではないかと思います。今では、お客様に四季折々の情報を提供し、海の中をご案内しています。おかげさまで全国をはじめ海外からも能登島の海藻群生地の美しさに魅了された七尾の里海のファンが集う海へと育てることができました。しかし、この海を守り育てるのは地域です。人々に感動を与えることのできる七尾の里海を将来も持続できるように、これからはさらに地域と連携したいと考えています。